

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

平成 29 年 3 月 31 日

法人名	施設名	施設の種別
社会福祉法人南生会	特別養護老人ホーム みやぎ台南生苑	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
移動支援	免荷式リフト POPO (ポポ)	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 29 年 2 月 10 日	1 台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 ※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 ・入居者の歩行リハビリに使用。POPO なしでは普段歩行しない方も POPO の使用で歩行ができています。 ・使用頻度は入居者の当日の体調に合わせて、週 3～4 回。 ・現在 5 名。		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】 ※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 ・介護従事者の満足度は、POPO を使用して日が浅いこともあり、まだ介護負担軽減という観点では、効果については数値化が難しい状況であるが、職員のリハビリに対する意欲は上がり、業務に取り組むようになってきている。今後入居者がリハビリを続けることで、身体機能向上が図れ、介護負担の軽減につながると考えられる。入居者はリハビリの一環で歩行することができるようになり、身体機能向上には時間は必要ではあるが、歩行すること自体は満足されている。又、自ら歩きたいとの意欲も見られている。		
【介護ロボットの不都合な点】 ※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 ・大きいこともあり、保管場所が困る。すぐに使用したい時に近くにない為、使用できないことがある。 ・機械の使い方を覚えなくてはならない。		

(別紙2)

介護ロボット使用状況報告書

平成30年3月8日

法人名	施設名	施設の種別
社会福祉法人 南生会	特別養護老人ホーム みやぎ台南生苑	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
移動支援	免荷式リフト POPO	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成29年2月10日	1台	
<b>【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】</b> ※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>入居者の歩行リハビリに使用。POPOを使用しないと歩けない、入居者に使用し、歩行が出来るようになってきている。</li><li>使用頻度は、入居者の体調や気分によるが、週3~4回程。</li><li>現在は、入居者3名の使用となっている。</li></ul>		
<b>【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】</b> ※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>POPOを導入してから1年になるが、入居者の状態（腰痛、意欲低下等）が見られることもあり、去年よりは、人数が減っている現状である。入居者の状態に合わせての活用にはなるが、施設職員は、リハビリに積極的な為、今後もPOPOを使用しながら入居者に歩く楽しみを感じてもらいたい。</li><li>リハビリを実施することで、入居者のやる気も出てきている為、決まったユニットだけの使用となっているが、POPOを取り入れていることにより、立ち上がりがスムーズになった入居者もいる。</li></ul>		
<b>【介護ロボットの不都合な点】</b> ※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。 <ul style="list-style-type: none"><li>施設に1台しかない為、使用時間が重なってしまうとスムーズに使用が出来ない。</li><li>使い方には、慣れた為、不都合な点は他には無し。</li></ul>		

(別紙 2)

介護ロボット使用状況報告書

平成 31 年 3 月 5 日

法人名	施設名	施設の種別
社会福祉法人 南生会	特別養護老人ホーム みやぎ台南生苑	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
移動支援	免荷式リフト POPO	
介護ロボット導入時期	導入台数	
平成 29 年 2 月 10 日	1 台	
<b>【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】</b> ※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 ・入居者の歩行リハビリに使用。POPO を使用しないと歩けない方や、筋力低下による歩行不安定な方に使用して歩行リハビリを実施している。使用頻度は毎週 1 回程度で定期的に変更されている入居者は 2 名、使用できるが体調面及び気持ちの面で見合わせている入居者が 10 名いる。		
<b>【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】</b> ※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 ・介護時間の短縮にはなっていないが、歩行時の事故や転倒が無いため安心して使用が出来る事が職員の精神的負担の軽減につながっている。入居者にも重度な負荷をかける事なく歩行ができる為、身体的な軽減に繋がっている。 ・心身の状態変化により定期的な使用が出来てはいないが、リハビリ委員会を中心に各ユニットで POPO を使用できる入居者を選出して毎月実施状況を確認している。職員も入居者が歩行できる姿から歩行の促しを積極的に行い、歩ける喜びを提供した気持ちで取り組んでいる。		
<b>【介護ロボットの不都合な点】</b> ※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。 ・準備から使用するまでに時間を要する。 ・使用方法は慣れてきたが、新しい職員にはその都度使用方法を教える必要はない。		